



CHAPTER 3

システム メッセージ ログिंगの設定

この章では、Cisco DCNM-SAN 上でシステム メッセージ ログングを設定する方法について説明します。内容は次のとおりです。

- 「システム メッセージ ログングについて」(P.3-1)
- 「注意事項と制限」(P.3-7)
- 「デフォルト設定」(P.3-7)
- 「システム メッセージ ログングの設定」(P.3-8)
- 「ログ設定の確認」(P.3-12)
- 「ログのモニタリング」(P.3-12)
- 「その他の参考資料」(P.3-13)
- 「システム メッセージ ログングの機能履歴」(P.3-13)

システム メッセージ ログングについて

システム メッセージ ログング ソフトウェアでは、メッセージをログ ファイルに保存したり、メッセージを他のデバイスに転送したりできます。デフォルトでは、スイッチにより、正常だが重要なシステムメッセージがログ ファイルに記録され、それらのメッセージがシステム コンソールに送信されます。この機能には次の特徴があります。

- モニタリングおよびトラブルシューティングに使用するログング情報を提供
- 取得したログング情報のタイプが選択可能
- キャプチャされたログング情報を適切に設定されたシステム メッセージ ログング サーバに転送するために宛先サーバを選択可能。

システム メッセージを監視するには、DCNM-SAN の [Events] タブをクリックするか、Device Manager で [Logs] > [Events] > [Current] を選択します。システム メッセージは、Telnet、SSH、コンソール ポートのいずれかを通じてスイッチにアクセスするか、システム メッセージ ログング サーバ上のログを参照することにより、リモートで監視することもできます。



(注)

最初にスイッチを初期化するとき、初期化が完了するまでネットワークは接続されません。そのため、メッセージはシステム メッセージ ログング サーバに数秒間リダイレクトされます。

ログ メッセージは、システム再起動後には消去されています。ただし、重大度が Critical 以下（レベル 0、1、2）の最大 100 個のログ メッセージは NVRAM に保存されます。

表 3-1 では、システム メッセージ ログでサポートされているファシリティの例について説明します。

表 3-1 内部ログイン ファシリティ

ファシリティ キーワード	説明	標準であるか、または Cisco MDS 固有であるか
acl	ACL マネージャ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
all	すべてのファシリティ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
auth	許可システム	標準
authpriv	認証 (プライベート) システム	標準
bootvar	Bootvar	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
callhome	Call Home	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
cron	cron ファシリティまたは at ファシリティ	標準
daemon	システム デーモン	標準
fcc	FCC	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
fcdomain	fcdomain	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
fcns	ネーム サーバ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
fcs	FCS	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
flogi	FLOGI	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
fspf	FSPF	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
ftp	ファイル転送プロトコル	標準
ipconf	IP 設定	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
ipfc	IPFC	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
kernel	カーネル	標準
local0 ~ local7	ローカルに定義されたメッセージ	標準
lpr	ラインプリンタ システム	標準
mail	メール システム	標準
mcast	マルチキャスト	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
module	スイッチング モジュール	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
news	USENET ニュース	標準
ntp	NTP	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
platform	プラットフォーム マネージャ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
port	ポート	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
port-channel	PortChannel	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
qos	QoS	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
rdl	RDL	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
rib	RIB	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
rscn	RSCN	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
securityd	セキュリティ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
syslog	内部システム メッセージ	標準
sysmgr	システム マネージャ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
tlport	TL ポート	Cisco MDS 9000 ファミリ固有

表 3-1 内部ログイン ファシリティ (続き)

ファシリティ キーワード	説明	標準であるか、または Cisco MDS 固有であるか
user	ユーザ プロセス	標準
uucp	UNIX 間コピー プログラム	標準
vhbad	仮想ホスト ベース アダプタ デモン	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
vni	仮想ネットワーク インターフェイス	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
vrrp_cfg	VRRP の設定	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
vrrp_eng	VRRP エンジン	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
vsan	VSAN システム メッセージ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
vshd	vshd	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
wwn	WWN マネージャ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
xbar	クロスバー システム メッセージ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
zone	ゾーン サーバ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有

表 3-2 に、システム メッセージ ログでサポートされている重大度を示します。

表 3-2 エラー メッセージの重大度

レベル キーワード	レベル	説明	システム メッセージ定義
emergencies	0	システムが使用不可	LOG_EMERG
alerts	1	即時処理が必要	LOG_ALERT
critical	2	クリティカルな状態	LOG_CRIT
errors	3	エラー状態	LOG_ERR
warnings	4	警告状態	LOG_WARNING
notifications	5	正常だが注意を要する状態	LOG_NOTICE
informational	6	情報メッセージだけ	LOG_INFO
debugging	7	デバッグ メッセージ	LOG_DEBUG



(注)

エラー ログ メッセージ フォーマットの詳細については、『Cisco MDS 9000 Family and Nexus 7000 Series System Messages Reference』を参照してください。

ここで説明する内容は、次のとおりです。

- 「DCNM-SAN からの Syslog サーバのモニタリング」 (P.3-4)
- 「システム メッセージ ログ」 (P.3-4)
- 「SFP 診断」 (P.3-5)
- 「出力されるシステム メッセージ ログ サーバ ファシリティ」 (P.3-5)
- 「システム メッセージ ログ サーバ」 (P.3-6)
- 「システム メッセージ ログ設定の配信」 (P.3-6)
- 「ファブリックのロックの上書き」 (P.3-7)

DCNM-SAN からの Syslog サーバのモニタリング

Cisco DCNM-SAN は、自身をロギングサーバとして登録し、Syslog メッセージを受信し、それらをスイッチごとに独立したファイルに保管します。

Cisco NX-OS Release 5.0(1a) 以降の DCNM-SAN は、ファブリック内のすべてのスイッチからの Syslog メッセージをデータベースに保管し、Web クライアントには集約された Syslog 情報のみを表示します。この機能は、イネーブルまたはディセーブルにできます。データベースに保管された Syslog は、設定可能な重大度によってフィルタリングされます。

DCNM-SAN が syslog レシーバを通じて Syslog メッセージを受信すると、それらの未処理メッセージが解析され、データベース内でそのメッセージを永続化させるためのフラグがオンにされます。解析されたフィールドからこのメッセージの重大度がチェックされ、Syslog メッセージはデータベースに送信されます。

未処理の Syslog メッセージは、switch time、facility、severity、event、および Vsan Id フィールドに解析されます。説明はデータベースに保管され、重大度でフィルタリングされます。

次のフィールドが server.properties に追加されます。

- syslog.dblog.enable = false

このフィールドは、Syslog メッセージをデータベースに保管する機能をオンにするために使用されます。このフラグをオンにすると、Syslog メッセージがデータベースにも書き込まれます。

- syslog.dblog.severity = warnings

このフィールドは、Syslog メッセージを重大度に基づいてフィルタリングするために使用されます。このプロパティを設定すると、Syslog メッセージが重大度に基づいてフィルタリングされます。

システムメッセージロギング

システムメッセージロギングソフトウェアは、メッセージをログファイルに保存したり、他のデバイスにメッセージを転送したりします。この機能では、次のことができます。

- モニタリングおよびトラブルシューティングのためにロギング情報を提供します。
- ユーザが、キャプチャされたロギング情報のタイプを選択できます。
- ユーザが、キャプチャされたロギング情報を転送するために宛先サーバを選択できます。

デフォルトでは、スイッチにより、正常だが重要なシステムメッセージがログファイルに記録され、それらのメッセージがシステムコンソールに送信されます。ファシリティおよび重大度に基づいて保存するシステムメッセージを指定できます。リアルタイムのデバッグおよび管理を強化するために、メッセージにはタイムスタンプが付加されます。

ロギングされたシステムメッセージには CLI を使用してアクセスできます。あるいは、それらのメッセージを正しく設定されたシステムメッセージロギングサーバに保存してアクセスすることもできます。スイッチソフトウェアは、システムメッセージを、1200 エントリまで保存可能なファイルに保存します。システムメッセージは、Telnet、SSH、コンソールポートのいずれかを通じてスイッチにアクセスするか、システムメッセージロギングサーバ上でログを表示することにより、リモートで監視できます。

SFP 診断

SFP 障害に関連したエラー メッセージは、Syslog に書き込まれます。SFP 障害に関連したイベントについて Syslog をリッスンできます。次のパラメータについて、値（下限または上限アラーム）と警告がチェックされます。

- TX 電力
- RX 電力
- 温度
- 電圧
- 電流

SFP 通知トラップは、デジタル診断モニタリング情報に基づいて、すべてのセンサーのアラームおよび警告のモニタリング パラメータの最新ステータスを示します。この通知は、インターフェイス内のトランシーバ上でセンサーのモニタリング パラメータが 1 つでもステータスを変化させると生成されます。

SFP 通知トラップ情報は、CISCO-INTERFACE-XCVR-MONITOR-MIB に格納されます。この MIB の詳細については、『Cisco MDS 9000 Family MIB Quick Reference』を参照してください。

出力されるシステム メッセージ ログング サーバ ファシリティ

すべてのシステム メッセージには、ログング ファシリティとレベルがあります。ログング ファシリティは場所、レベルは対象と考えることができます。

単一のシステム メッセージ ログング デーモン (syslogd) が、設定されている **facility** オプションに基づいて情報を送信します。ファシリティが指定されていない場合、local7 がデフォルトの送信ファシリティとなります。

内部ファシリティの一覧は表 3-1 に記載されており、送信ログング ファシリティの一覧は表 3-3 に記載されています。

表 3-3 送信ログング ファシリティ

ファシリティ キーワード	説明	標準であるか、または Cisco MDS 固有であるか
auth	許可システム	標準
authpriv	認証 (プライベート) システム	標準
cron	cron ファシリティまたは at ファシリティ	標準
daemon	システム デーモン	標準
ftp	ファイル転送プロトコル	標準
kernel	カーネル	標準
local0 ~ local7	ローカルに定義されたメッセージ	標準 (デフォルトは local7)
lpr	ラインプリンタ システム	標準
mail	メール システム	標準
news	USENET ニュース	標準
syslog	内部システム メッセージ	標準

表 3-3 送信ログgings ファシリティ (続き)

ファシリティ キーワード	説明	標準であるか、または Cisco MDS 固有であるか
user	ユーザ プロセス	標準
uucp	UNIX 間コピー プログラム	標準

システムメッセージログgings サーバ

Device Manager を使用すると、スイッチ上のイベント ログだけでなく、ローカル PC 上のイベント ログも参照できます。スイッチで発生するすべてのイベントを永続的に記録するには、これらのメッセージをスイッチから取得して保存する必要があります。そのためには、Syslog メッセージをローカル PC に送信するように Cisco MDS 9000 ファミリースイッチを設定し、それらのメッセージを受信するためにその PC 上で Syslog サーバを動作させる必要があります。これらのメッセージは、次の 4 つのクラスに分類されます。

- ハードウェア：ラインカードまたは電源の問題
- リンク インシデント：FICON ポートの状態変化
- アカウンティング：ユーザ変更イベント
- イベント：その他すべてのイベント



(注)

DHCP によってランダムに IP アドレスが割り当てられた PC を使用するのを避けてください。スイッチは、手動で変更するまで古い IP アドレスを使用し続けます。ただし、Device Manager では、この状況を検出するとプロンプトが表示されます。UNIX ワークステーションには syslog サーバが組み込まれています。組み込み syslog デーモンを停止しシスコの syslog サーバを起動するには、root のアクセス権が必要です (または、シスコの syslog サーバを root の seuid として実行します)。

システムメッセージログgings設定の配信

ファブリック内のすべての Cisco MDS 9000 ファミリースイッチに対してファブリック配信をイネーブルにできます。システムメッセージログgingsを設定した場合、配信がイネーブルになっていると、その設定がファブリック内のすべてのスイッチに配信されます。

スイッチでの配信をイネーブルにした後で最初のコンフィギュレーション コマンドを発行すると、ファブリック全体が自動的にロックされます。システムメッセージログgingsサーバは、有効/保留データベース モデルを使用して、設定をベースにコマンドを保存またはコミットします。設定の変更を確定すると、有効データベースが保留データベースの設定変更で上書きされ、ファブリック内のすべてのスイッチで設定が同じになります。設定を変更した後、変更を廃棄するには、変更を確定せずに中断します。いずれの場合でも、ロックは解除されます。CFS アプリケーションの詳細については、第 2 章「CFS インフラストラクチャの使用」を参照してください。

ファブリックのロックの上書き

システム メッセージ ログングで作業を行い、変更の確定か廃棄を行ってロックを解除するのを忘れた場合、管理者はファブリック内の任意のスイッチからロックを解除できます。管理者がこの操作を行うと、ユーザによる保留データベースの変更は廃棄され、ファブリックのロックは解除されます。



ヒント

変更は `volatile` ディレクトリだけで使用でき、スイッチを再起動すると廃棄されます。

注意事項と制限

概念の詳細については、「[CFS マージのサポート](#)」(P.2-6) を参照してください。

2つのシステム メッセージ ログング データベースをマージする場合は、次の注意事項に従ってください。

- マージされたデータベースは、ファブリック内のスイッチごとに存在する受信データベースを結合したものになることに注意してください。
- マージされたデータベースに、最大で3つのシステム メッセージ ログング サーバしか含まれないことを確認してください。



注意

マージされたデータベースに含まれるサーバが3台を超えると、そのマージは失敗します。

デフォルト設定

表 3-4 に、システム メッセージ ログングのデフォルト設定値の一覧を示します。

表 3-4 システム メッセージ ログのデフォルト設定値

パラメータ	デフォルト
コンソールへのシステム メッセージ ログング	Critical 重大度のメッセージに対してイネーブル。
Telnet セッションへのシステム メッセージ ログング	ディセーブル。
ログング ファイル サイズ	4194304。
ログ ファイル名	メッセージ (最大 200 文字の名前に変更可能)。
ログング サーバ	ディセーブル。
Syslog サーバの IP アドレス	設定されていません。
サーバ数	3 台。
サーバ機能	local7。

システム メッセージ ログイングの設定

システム ログイング メッセージは、デフォルトの（または設定された）ログイング ファシリティと重大度に基づいてコンソールに送信されます。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「システム メッセージ ログイングを設定するためのタスク フロー」 (P.3-8)
- 「メッセージ ログイングのイネーブル化またはディセーブル化」 (P.3-8)
- 「モニタ重大度の設定」 (P.3-9)
- 「ファシリティ重大度の設定」 (P.3-10)
- 「ログ ファイルの送信」 (P.3-10)
- 「システム メッセージ ログイング サーバの設定」 (P.3-11)

システム メッセージ ログイングを設定するためのタスク フロー

システム メッセージ ログイングを設定するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** メッセージ ログイングをイネーブルまたはディセーブルにします。
 - ステップ 2** モニタ重大度を設定します。
 - ステップ 3** ファシリティ重大度を設定します。
 - ステップ 4** ログ ファイルを送信します。
 - ステップ 5** システム メッセージ ログイング サーバを設定します。
-

メッセージ ログイングのイネーブル化またはディセーブル化

コンソールへのログイングをディセーブルにしたり、特定された Telnet セッションまたは SSH セッションへのログイングをイネーブルにできます。

- コンソール セッションへのログイングをディセーブルまたはイネーブルにすると、その状態は将来のすべてのコンソール セッションに適用されます。セッションを終了して新しいセッションに再度ログインした場合、状態は保持されます。
- Telnet セッションまたは SSH セッションへのログイングをイネーブルまたはディセーブルにした場合、その状態はそのセッションだけに適用されます。セッションを終了して新しいセッションに再度ログインした場合、状態は保持されません。

手順の詳細

Telnet セッションまたは SSH セッションのログイング状態をイネーブルまたはディセーブルにするには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Fabric] ペインでスイッチを選択します。
 - ステップ 2** [Physical Attributes] ペインで [Events] を展開し、[SysLog] を選択します。
[Information] ペインに、SysLog 情報が表示されます。

- ステップ 3** [Switch Logging] タブをクリックします。
スイッチ情報が表示されます。
 - ステップ 4** [Information] ペインでスイッチを選択します。
 - ステップ 5** [Console Enable] チェックボックスをオン（イネーブル）またはオフ（ディセーブル）にします。
 - ステップ 6** [Apply Changes] アイコンをクリックします。
-

コンソール重大度の設定

コンソール セッションに対するログिंगがイネーブルになっている場合（デフォルト）、コンソールに表示されるメッセージの重大度を設定できます。コンソール ログिंगのデフォルトの重大度は 2（Critical）です。

コンソールのポー レートが 9600 ボー（デフォルト）の場合、現在の Critical（デフォルト） ログिंग レベルが維持されます。コンソール ログング レベルを変更しようとする、必ずエラー メッセージが生成されます。ログング レベルを上げる（Critical よりも上に）には、コンソールのポー レートを 38400 ボーに変更する必要があります。

モニタ重大度の設定

モニタ セッションに対するログングがイネーブルになっている場合（デフォルト）、モニタに表示されるメッセージの重大度を設定できます。モニタ ログングのデフォルトの重大度は 5（notifications）です。

手順の詳細

ログング ファシリティの重大度を設定するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [Fabric] ペインでスイッチを選択します。
 - ステップ 2** [Physical Attributes] ペインで [Events] を展開し、[SysLog] を選択します。
[Information] ペインに、SysLog 情報が表示されます。
 - ステップ 3** [Switch Logging] タブをクリックします。
スイッチ情報が表示されます。
 - ステップ 4** [Information] ペインでスイッチを選択します。
 - ステップ 5** そのスイッチの行の [Console Severity] ドロップダウン リストから重大度を選択します。
 - ステップ 6** [Apply Changes] アイコンをクリックします。
-

モジュール ログングの設定

デフォルトでは、すべてのモジュールに対してレベル 7 でログングが有効になっています。各モジュールの対するログングを、特定のレベルでイネーブルまたはディセーブルにできます。

ファシリティ重大度の設定

手順の詳細

ロギングファシリティの重大度を設定するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Physical Attributes] ペインで [Events] を展開し、[SysLog] を選択します。
Device Manager で、[Logs] > [Syslog] > [Setup] の順に選択し、[Syslog] ダイアログボックスの [Switch Logging] タブをクリックします。
スイッチ情報が表示されます。
 - ステップ 2** メッセージロギングを行うチェックボックスをオンにします ([ConsoleEnable]、[TerminalEnable]、[LineCardEnable])。
 - ステップ 3** DCNM-SAN で、各スイッチに対するメッセージ重大度しきい値を [Console Severity] ドロップダウンボックスから選択します。または、Device Manager で、適切なメッセージ重大度のオプション ボタンをクリックします。
 - ステップ 4** DCNM-SAN で [Apply Changes] アイコンをクリックするか、Device Manager で [Apply] をクリックし、変更内容を保存して適用します。
-

ログファイルの送信

デフォルトでは、スイッチにより、正常だが重要なシステムメッセージがログファイルに記録され、それらのメッセージがシステムコンソールに送信されます。ログメッセージは、システムの再起動時に保存されません。ロギングメッセージは生成時にログファイルに保存できます。必要に応じてこのファイルの名前を設定したり、そのサイズを制限できます。デフォルトのログファイル名は `messages` です。

ファイル名の最大文字数は 80 文字で、ファイルサイズの範囲は 4096 ~ 4194304 バイトです。

制約事項

設定したログファイルは、`/var/log/external` ディレクトリに保存されます。ログファイルの場所の変更できません。

手順の詳細

ログメッセージをファイルに送るには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Fabric] ペインでスイッチを選択します。
 - ステップ 2** [Physical Attributes] ペインで [Events] を展開し、[SysLog] を選択します。
[Information] ペインに、SysLog 情報が表示されます。
 - ステップ 3** [Information] ペインでスイッチを選択します。
 - ステップ 4** [Switch Logging] タブをクリックします。
 - ステップ 5** ログファイルの名前を、そのスイッチの行の [LogFile Name] カラムに入力します。
 - ステップ 6** [Apply Changes] アイコンをクリックします。
-

システム メッセージ ログング サーバの設定

最大 3 台のシステム メッセージ ログング サーバを設定できます。DCNM-SAN の [Event] タブからシステム メッセージを参照するには、これらの Syslog サーバの 1 台を DCNM-SAN にする必要があります。

ログ メッセージを UNIX システム メッセージ ログング サーバに送るには、UNIX サーバ上でシステム メッセージ ログング デーモンを設定する必要があります。root でログインし、次の手順を実行します。

ステップ 1 次の行を /etc/syslog.conf ファイルに追加します。

```
local1.debug                               /var/log/myfile.log
```



(注) local1.debug と /var/log/myfile.log の間には、必ず 5 個のタブ文字を追加してください。詳細な例については、/etc/syslog.conf ファイルのエントリを参照してください。

スイッチは、指定されたファシリティ タイプと重大度に基づいて、メッセージを送信します。local1 キーワードは、UNIX のログング ファシリティを使用することを指定します。スイッチからのメッセージは、ユーザ プロセスによって生成されます。debug キーワードは、ログに記録される状態の重大度を指定します。スイッチからのすべてのメッセージを受信するように UNIX システムを設定できます。

ステップ 2 UNIX シェル プロンプトに次のコマンドを入力して、ログ ファイルを作成します。

```
$ touch /var/log/myfile.log
$ chmod 666 /var/log/myfile.log
```

ステップ 3 次のコマンドを実行して、システム メッセージ ログング デーモンに新しい変更を読み込ませます。

```
$ kill -HUP ~cat /etc/syslog.pid~
```



(注) CFS を使用している機能の [Information] ペインのほとんどのタブは、[CFS] タブをクリックするまで薄く表示されます。[CFS] タブには、CFS がイネーブルになっているスイッチと、この機能のマスター スイッチが表示されます。[CFS] タブをクリックすると、CFS を使用している [Information] ペインの他のタブがアクティブになります。

手順の詳細

システム メッセージ ログング サーバを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Physical Attributes] ペインで [Events] を展開し、[SysLog] を選択します。

ステップ 2 [Information] ペインで、[Servers] タブをクリックします。

Device Manager で、[Logs] > [Syslog] > [Setup] の順に選択し、[syslog] ダイアログボックスの [Servers] タブをクリックします。

ステップ 3 新しい Syslog サーバを追加するには、DCNM-SAN で [Create Row] アイコンをクリックするか、Device Manager で [Create] をクリックします。

ステップ 4 syslog サーバの名前またはドット付き 10 進表記の IP アドレス（たとえば 192.168.2.12）を、[Name or IP Address] フィールドに入力します。

ステップ 5 [MsgSeverity] オプション ボタンをクリックしてメッセージ重大度のしきい値を設定し、[Facility] オプション ボタンをクリックしてファシリティを設定します。

- ステップ 6** DCNM-SAN で [Apply Changes] アイコンをクリックするか、Device Manager で [Create] をクリックし、変更を保存して適用します。
-

ログ設定の確認

ここでは、システムメッセージロギング設定情報を表示する方法について説明します。

DCNM-SAN Web サーバからの Syslog サーバの確認

Syslog サーバを、DCNM-SAN Web サーバを使用してリモートで確認するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** ブラウザで DCNM-SAN Web サーバにアクセスします。
- ステップ 2** [Events] > [Syslog] を選択して、各スイッチの syslog サーバ情報を表示します。テーブル内のカラムはソートできます。
-

ログのモニタリング

この項では、次の項目について説明します。

- 「[DCNM-SAN Web サーバからのログの表示](#)」(P.3-12)
- 「[Device Manager からのログの表示](#)」(P.3-13)

DCNM-SAN Web サーバからのログの表示

DCNM-SAN Web サーバを使用してシステムメッセージをリモートで表示するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** ブラウザで DCNM-SAN Web サーバにアクセスします。
- ステップ 2** [Events] タブ、[Details] の順にクリックするとシステムメッセージが表示されます。イベントテーブル内のカラムはソートできます。また、[Filter] ボタンを使用して、テーブル内のメッセージの範囲を制限できます。
-

Device Manager からのログの表示

DCNM-SAN と同じワークステーションから Device Manager を実行している場合には、Device Manager からシステム メッセージを表示できます。Device Manager で [Logs] > [Events] > [current] を選択すると、システム メッセージが表示されます。イベント テーブル内のカラムはソートできます。また、[Find] ボタンを使用して、テーブル内のテキストを検索できます。

スイッチに保存されているログは、ローカル Syslog サーバが設定されていなくても、またはスイッチの Syslog サーバリストにローカル PC が含まれていなくても表示できます。ただし、メモリに制限があるため、特定のサイズに達すると古いログは消去されます。スイッチの Syslog には、2 つのログがあります。Critical 以上の重大度のメッセージが限定数だけ保存される NVRAM ログ、および Notice 以上の重大度のメッセージが保存される非永続的なログです。ハードウェア メッセージは、これらのログに含まれます。

その他の参考資料

システム メッセージ ログングの実装に関する詳細情報については、次の項を参照してください。

- 「MIB」(P.3-13)

MIB

MIB	MIB のリンク
<ul style="list-style-type: none"> • CISCO-SYSLOG-EXT-MIB • CISCO-SYSLOG-MIB 	<p>MIB を検索およびダウンロードするには、次の URL にアクセスしてください。</p> <p>http://www.cisco.com/en/US/products/ps5989/prod_technical_reference_list.html</p>

システム メッセージ ログングの機能履歴

表 3-5 に、この機能のリリース履歴を示します。Release 3.x 以降のリリースで導入または変更された機能のみが表に記載されています。

表 3-5 システム メッセージ ログングの機能履歴

機能名	リリース	機能情報
Syslog の拡張	5.0(1a)	DCNM-SAN からの Syslog サーバのモニタリングが追加されました。 システム メッセージ ログング情報が追加されました。

